

平成24年度

登録左官基幹技能者認定試験問題解答（60分）

近畿ブロック

受講番号		氏 名	
------	--	-----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題（四肢択一法）

3. 注意事項

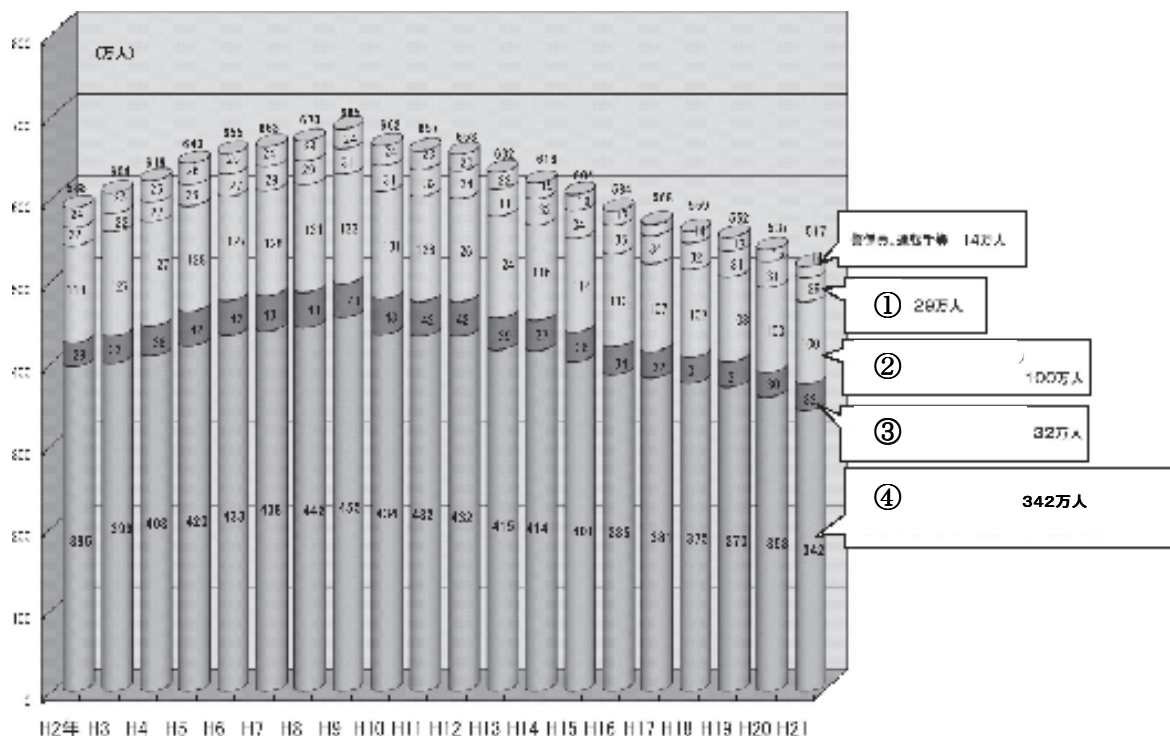
- （1）試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- （2）受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- （3）本冊子は、表紙を含めて11頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- （4）試験開始の合図で始めてください。
- （5）解答の方法は、次のとおりです。
 - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
 - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
 - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- （6）電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- （7）試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- （8）答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

問題 1 労働調査の現状を示した図の①～④の内容に関して、最も不適当なものはどれか。

出所：総務省「労働力調査」（歴年平均）



- ①は、営業職を示している。
- ②は、会社役員・管理職・事務職等を示している。
- ③は、技術者（設計・現場監督等）を示している。
- ④は、プロジェクトマネージャーを示している。

問題2 登録基幹技能者の確保・育成・活用に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 登録基幹技能者の確保・育成・活用をすることにより、所属する会社の生産性の向上や家族とのコミュニケーションの向上を図る。
2. 登録基幹技能者の確保・育成は、登録基幹技能者講習の円滑な実施により行わなければならない。
3. 登録基幹技能者の確保・育成は、登録基幹技能者制度のPR等によって促進しなければならない。
4. 登録基幹技能者の確保・育成をすることにより、下請業者の適正な評価および技能労働者の処遇の改善を行う。

問題3 登録基幹技能者に必要な資質に関する事項に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 調査・分析結果から、対象物の全体像と要点を掌握することができる。
2. 対象物にまつわる諸条件を的確に捉え、客観的な観点から、結論を導き出すことができる。
3. 職務に直接関係しない部分での改善や提案等を積極的に行うことで、現場の円滑な運営を行うことができる。
4. 施工計画の策定に参加し、計画に係る諸事項の決定およびその管理方法について、提案することができる。

問題4 建設現場における生産体制に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建設工事現場においては、工学上の知識・経験を基に施工計画の作成・施工管理を行う技術者と、直接施工に従事する技能労働者が生産活動を担っている。
2. 現場における直接施工に従事する技能労働者は、「職長」、「班長」、「見習い」と分類した職階で分けることができる。
3. 中級技能者は、業種に対応した資格を有し、上司の指導に基づき部下を指示し、自らも技能を発揮し、安全に直接的施工にあたるものである。
4. 上級技能者（職長クラス）は、業種に対応した資格を有し、優れた直接的施工能力を持ち、担当工事現場の責任者として工程・施工・安全等の管理と作業の指揮を行う、基幹技能者になり得るものである。

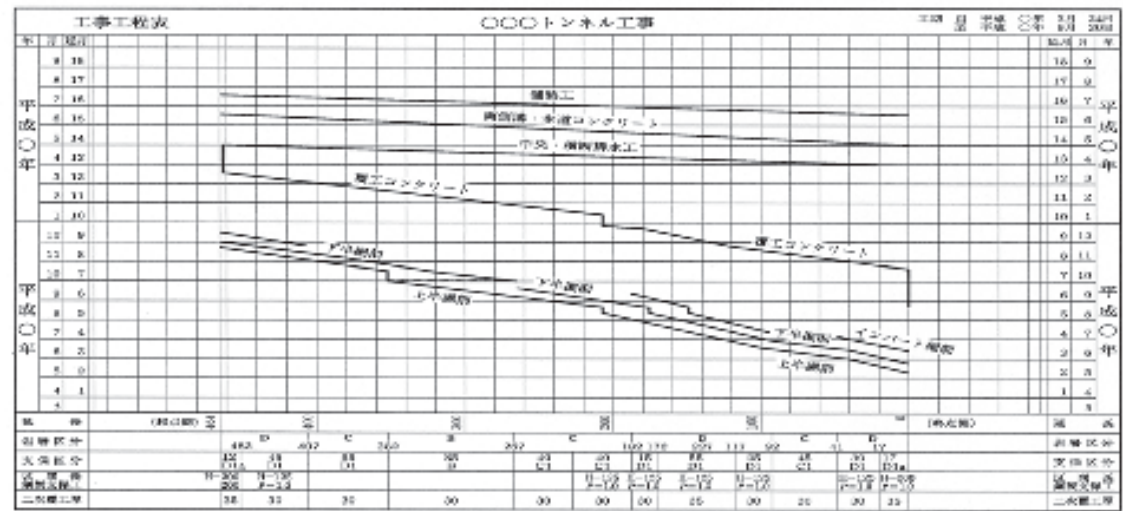
問題5 OJTの目標の設定および指導方法に関して、最も不適当なものはどれか。

1. OJTを進める上で重要なポイントは、教える相手に対して、何をどの程度教えるのか把握した上で指導することである。
2. 個々の教育ニーズをつかんだら、次は教育目標を設定するために、そのニーズを踏まえ、個々の職階に求められる役割・技能と、教育・訓練事項を定め、それを充足するための教育訓練計画を作り、これらの教育訓練計画にそって、それぞれ個別の指導をすることが必要である。
3. 指導と、仕事の与え方とは深く関係があり、登録基幹技能者次第で、仕事の能率や部下の成長の仕方も微妙に違ってくる。
4. 指導で大切なことは、指示通りにやらせることであり、部下に仕事を与え、他職種の職長に工夫させ、他の現場でそれを試させ、その結果を活用することである。

問題6 OJTの指導方法のうち「現場の詰所内の清掃」に関して、最も不適当なものはどれか。

1. まず、他職種の職場を清潔にすること。
2. 毎日、整理・整頓を必ず行うこと。
3. リサイクル運動に協力すること。
4. 帰る前には火の始末を忘れずに行うこと。

問題7 次の工程表において、最も不適当なものはどれか。



1. この工程表は、ネットワーク式工程表である。
2. この工程表は、横線式工程表に施工場所の要素を合せて表現したもので、トンネル工事のように、線的な工事で、しかも工種が比較的少ない工事に適している。
3. この工程表は、横軸にトンネルの距離程をとり、縦軸に日数（工期）をとっている。
4. 各工種の作業は、1本の斜線で、作業期間・着手地点・進行方向・作業速度を示している。

問題8 建設業法上違反となる行為、または違反となるおそれがある行為の事例に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 下請契約の締結後に、元請負人が下請負人に対して、下請工事に使用する資材又は機械器具等を指定した結果、下請負人は予定していた購入価格より高い価格で資材等を購入することとなった場合。
2. 下請契約の締結前に、元請負人が下請負人に対して、下請工事に使用する資材又は機械器具等の購入先を指定していたにもかかわらず、下請負人は標準的な購入価格より高い価格で資材等を購入することとなった場合。
3. 下請契約の締結後、元請負人が指定した資材等を購入させたことにより、下請負人が既に購入していた資材等を返却せざるを得なくなり金銭面及び信用面における損害を受け、その結果、従来から継続的取引関係にあった販売店との取引関係が悪化した場合。
4. 元請負人が、元請負人と下請負人の責任及び費用負担を明確にしないままやり直し工事を下請負人に行わせ、その費用を一方的に下請負人に負担させた場合。

問題 9 建設工事標準下請契約約款において、工事材料の品質及び検査に関する事項に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 工事材料につき設計図書にその品質が明示されていないものは、上等の品質を有するものとする。
2. 下請負人は、工事材料については、使用前に監督員の検査に合格したものを使用する。
3. 監督員は、下請負人から前項の検査を求められたときは、遅滞なくこれに応ずる。
4. 下請負人は、工事現場内に搬入した工事材料を監督員の承諾を受けないで工事現場外に搬出しない。

問題 10 ブレーンストーミング(BS)の手法を用いて行う場合に関して、最も不適当なものはどれか。

1. BS のルールでは、他人の意見を批判しない、量を出すことが優先されることから、安心して誰もが自由にアイデアを述べることができる。
2. BS は、5～7 人程度の少人数の集団で、ある人の意見やアイデアに関して他の人たちが連鎖反応を示し、多彩・豊富・独創的な考え方を引き出す働きがある。
3. BS におけるアイデアや意見に関する連鎖反応は、チーム全体の楽しさや競争心を生み出すことにつながっている。
4. BS のメンバーは、専門家、ゼネラリスト等で構成し、他分野の専門家は入れないほうが良い。

問題 11 セメントモルタル塗りの塗り厚に関して、JASS 15 の適用仕様で、最も不適当なものはどれか。

1. 仕上厚は、天井・ひさしは12mm以下、その他は25mm以下とする。
2. 1 回の塗り厚は、標準 6 mm、最大15mm以下とする。
3. ALCパネル下地の総塗り厚は、15mm程度を上限とする。
4. つけ送り厚さが25mm以下でも、総塗り厚35mmを超える場合は、はく落防止を補強する。

問題 1 2 左官下地と塗り層との寸法変化（ムーブメント）に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 熱冷ムーブメントをサーマルムーブメントという。
2. 乾湿ムーブメントをモイスタームーブメントという。
3. 熱冷ムーブメントは、塗られたセメントモルタルなどに雨水や湿分の影響で乾燥と湿潤の相互の繰り返し変化による伸縮・反りなどの変形挙動が起こるものである。
4. 相対的ムーブメントをディファレンシャルムーブメントという。

問題 1 3 セっこうボード下地の適用仕様に関して、最も不適当なものはどれか。

1. セっこうボード（GB-R）は、薄塗り仕上げに適する。
2. セっこうラスボード（GB-L）は、厚塗り仕上げに適する。
3. セっこうボードの防耐火認定は、厚さ 7.5mm 以上である。
4. 開口部の出隅には、継ぎ目を設けないように一枚のボードを切り搔いて割り付ける。

問題 1 4 仕上塗材の種類および呼び名に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 内装セメント系薄付け仕上塗材は、内装薄塗材 C のことである。
2. 内装消石灰・ドロマイトプラスター系薄付け仕上塗材は、内装薄塗材 W のことである。
3. 外装合成樹脂エマルジョン系厚付け仕上塗材は、外装厚塗材 E のことである。
4. 内装セっこう系厚付け仕上塗材は、内装厚塗材 G のことである。

問題 1 5 ラス下地の施工に関して、最も不適当なものはどれか。

1. ラスは、質量が 700g/m²以上の波形 1 号ラスを使用する。
2. ステープルは、1019J 以上のものを使用する。
3. ラス系下地用既調合軽量セメントモルタルの外壁の防火基準は、厚さ 16 mm以上とする。
4. 防水紙は、アスファルトフェルト 18 kg/巻を使用する。

問題 16 コンクリート表面の処理方法に関して、最も不適当なものはどれか。

枝番	処理方法	適用目的	概要	留意点
1.	高圧水洗浄	目粗し、脆弱層の除去	高圧水洗いの吐出圧力 50 ～ 150 N/mm ² 、吐出圧と運行速度は、コンクリート強度などによる。	必要な粗さを設定でき、作業者によるばらつきが少なく、施工管理が比較的容易。下階への水対策を検討する必要がある。
2.	サンダー掛け	目粗し、脆弱層の除去	ディスクサンダーあるいはカップサンダーによってコンクリート表面を目粗し、水洗いにより表面に付着した粉塵を除去する。	特別な工具を必要とせず、作業は容易。埃や音の発生がある。施工のばらつきが出やすいので見本などを作成し管理する。
3.	ブラシ掛け	清掃、脆弱層の除去	刷毛あるいは左官用ブラシによりコンクリート表面を擦り、塵埃や脆弱層を除去する。	作業は簡単だが、施工管理が曖昧となりやすい。水洗いを併用する。
4.	専用シートによる凹凸処理	コンクリート表面への凹凸付与	ポリエチレンフィルム製専用シートを型枠に取り付け、コンクリート表面への凹凸付与し、それがモルタルに食い込むことにより、はく離を防止する。	専用シートの廃材が発生するため、その処理対策を講じておく必要がある。

問題 17 外壁の雨掛りを軽減する配慮に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 基礎を高くすることは、雨掛りや地面からの跳ね返りを軽減する上で有効である。
2. 開口部に霧除け底を設けることは、雨仕舞いの弱点となりがちな開口部廻りの保護のほか、雨、雪、夏の日差しから外壁や開口部を守る上で重要である。
3. 柱、梁にちりじゃくりを設けることにより、木材や左官材料が収縮した際に、水の浸入を軽減することができる。
4. 雨の跳ね返りを軽減するためには、建物の外周をコンクリート仕上げとする。

問題 18 塗り壁の故障の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 下地の吸水小 — はく離・ひび割れ — 吸水調整材を原液にする。
2. ドカ付け — ひび割れ — つけ送りを行う。
3. 目地処理不足 — 付着不良 — 目地処理を充分行う。
4. さび止めしない鉄部 — さび発生（せっこうプラスター） — さび止めを行う。

問題 19 施工計画に必要とされる内容について、最も不適当なものはどれか。

1. 労務・機械・資材等の調達計画
2. 現場管理体制計画
3. 資金・予算等の管理計画
4. 社員の教育訓練計画

問題 20 建設リサイクル法に規定された再生資源について、最も不適当なものはどれか。

1. 建設発生木材
2. 建設発生土（土砂）
3. コンクリート塊
4. アスファルト、コンクリート塊

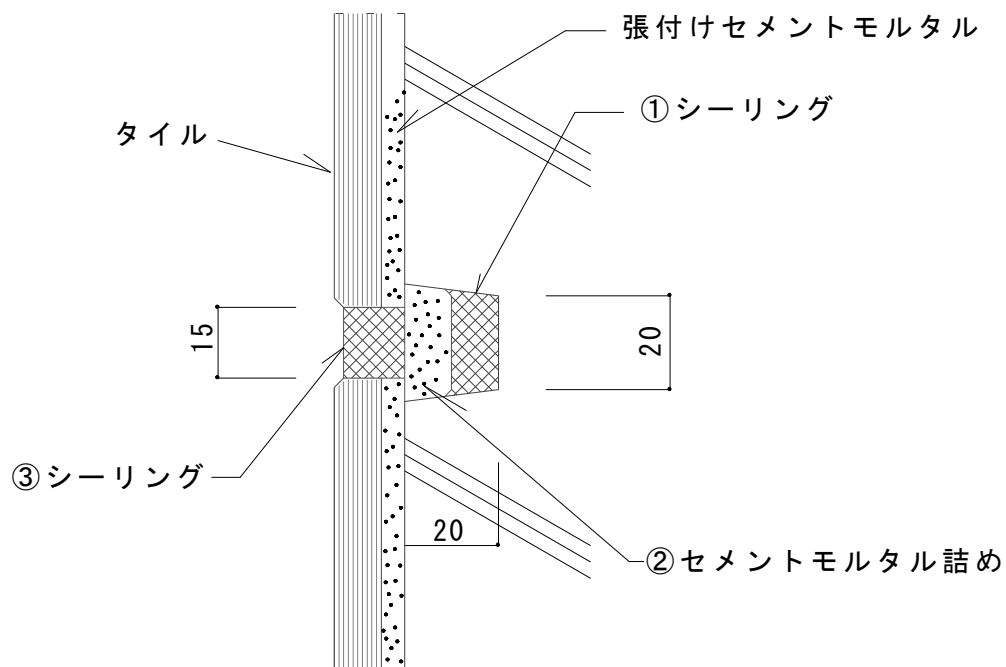
問題 21 コストダウンの方法について、最も不適当なものはどれか。

1. ヒト、モノ、カネ、情報などそれぞれの経営資源に対してロスを失くすようにする。
そのための平準化、作業の効率化、マニュアル化などでコストダウンを進める。
2. 交通費、交際費、広告宣伝費などの経費を削減する。
3. 施工管理体制を強化し、より良い品質のものを顧客に提供する。
4. I E、V E、CMなどの科学的な手法によってコストダウンを果たす。

問題 2 2 下図のような、外壁の誘発目地（伸縮目地）の施工について、最も不適当なものはどれか。

1. ①のシーリングは、外部からの雨水の浸入を防ぐもので、10 mm程度の厚みがあれば良い。
2. ②の目地処理は、貧調合(1:4)のセメントモルタルを詰める程度で良い。
3. ③のシーリングは、誘発目地（伸縮目地）と必ず同じ位置に取り付ける必要がある。
4. 外壁タイル張りの誘発目地の取付位置が所定の割付け位置よりもずれた場合は、タイルを切断するか、誘発目地をまたいでタイルを張り付ける

誘発目地（伸縮目地）



問題 2 3 労働安全に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 我が国の職場の安全衛生が大きく進展したのは、昭和 22 年に労働基準法が制定され、昭和 47 年に労働安全衛生法が制定される等、法的整備をしたことが大きく貢献している。
2. 近年の安全衛生の目標は単に「災害がない職場」から、より健康的でより快適な職場作りへと変化しており、「自主的な安全衛生管理」の比重が大きくなっている。
3. 企業が社会的に存続するためには、(1)企業の利益、(2)企業の社会的責任、(3)従業員の幸福、(4)株主への還元 の四要件を同時に満たすことが必要である。
4. 近年の建設業における死亡者数は、全産業の 35%前後であり、他産業に比べて高い割合を占めている。

問題 2 4 安全衛生活動の進め方に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 労働安全法によれば、安全管理者、衛生管理者、産業医を選任する必要があるのは、常時 100 人以上の規模の工事現場であり、100 人未満の工事現場には必要がない。
2. 安全衛生活動として、事業者は従業員がミスを起こさないように指導・監督を行うとともに、普段の安全衛生に関する教育が必要とされる。
3. 安全衛生教育は、法定教育と法定外教育に大別され、職長に対する教育は法定教育に分類される。
4. 安全衛生活動として、安全活動施工サイクル活動、指差し呼称活動、危険予知活動等が知られている。

問題 2 5 安全衛生の新しい流れに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 平成 11 年に「労働安全衛生マネジメントに関する指針」が制定され、更に平成 18 年に労働安全衛生マネジメントに関する指針が公示された。
2. 労働安全衛生マネジメントに関する指針では、計画の段階で、安全衛生に関する方針、危険性又は有害性等の調査は必要であるが、目標は立案する必要がない。
3. MSDS 制度の MSDS (Material Safety Data Sheet の略) とは、化学物質等安全データシートのことである。
4. リスクアセスメントとは、職場における危険性又は有害性を見つけ出し、その見積り、評価、低減対策の検討と実施までを含むものである。